

春の行楽に縁結び弁当

足利市と民間業者 「春まつり」で販売



市と観光協会、仕出し業者が共同開発した行楽弁当「えんむすび御膳」

は、仕出しや給食業務を手
掛ける福居町の太鼓橋（保
々賀右社長）と共同で、春

の行楽シーズン向けの弁当「えんむすび御膳」を開発、18日からの足利春まつりで販売する。市が民間企業と

共同で観光用の商品を開発するのは初めてで、今後も季節ごとの弁当を提供していく方針。

弁当の共同開発は、昨夏に足利織姫神社が「恋人の聖地」や「日本夜景遺産」に認定されたことを受け、同社側から市に提案。市観光振興課や同協会の女性職員が中心となり、「出逢いのあるまち あしかが」をテーマに「縁」や「恋」などをイメージした食材を盛り込むことを決めた。

メニューは、同神社が縁結びの神社として知られていることにかけておにぎり「ゆかり（縁）むすび」のほか、市産野菜の煮物など。

13日には保々社長らが市役所を訪れ、和泉聡市長に弁当を披露。試食した和泉市長は「いろいろな世代

の人の口に合う味付け。この弁当をきっかけに、このような取り組みが広がってほしい」と、満足そうに話した。

「えんむすび御膳」は1千円（税込み）。伊勢崎3丁目の太平記館と東武足利市駅構内の足利観光交流館「あし・ナビ」で販売する。問い合わせは同協会 ☎0284・43・3000。

（柴田正人）